

5 研究主題 —研究で何を明らかにするか—

研究の目的を明確にし、検証可能な主題を設定する。

「校内研究」は、児童生徒の実態を踏まえ、学校の実践上の課題を取り上げて研究主題を設定し、教職員が共同で取り組む研究活動です。

学校の実践上の課題は様々ありますが、研究主題はできるだけ焦点化され、具体化されたものでなければなりません。校内研究が進まない理由の一つに、主題が大きすぎて意味がよく分からないということが挙げられます。

研究主題の文言を考える際には、次の三つの要素を含むことが大切です。（野田敏孝『初めての教育論文—現場教師が研究論文を書くための65のポイント』p.18）

- | | |
|----------------------------|------|
| A：研究に方向性を与えていくもの | [目的] |
| B：内容構造が具体化され、焦点化されているもの | [内容] |
| C：どのような手立てをとるか、明らかにされているもの | [方法] |

〈一般的な研究主題の例〉

社会的な見方や考え方を育てるための社会科指導の在り方

[目的]

[内容]

—情報を読み取り活用する活動の工夫—

[方法]

研究主題の中で、目指す児童生徒の姿を表現するときに安易に使ってしまいがちな動詞があります。しかし、具体的にどんな児童生徒の姿なのかをある程度想定した上で使わないと、検証する段階で判断することが難しくなってしまいます。次に示す動詞はよく使われる動詞ですが、十分に吟味・検討した上で、使う必要があります。（野田敏孝『初めての教育論文—現場教師が研究論文を書くための65のポイント』p.21）

| 主題の言葉（動詞） | 吟味・検討すべき内容 |
|-----------|--|
| (～を) 高める | 児童生徒がどうなったら — “高まった” ことになるのか “深まった” ことになるのか “広がった” ことになるのか |
| (～を) 深める | |
| (～を) 広げる | |

同じ意味で気を付けて使うとよい修飾語には、例えば次のようなものがあります。

豊かな 確かな 生き生きと 主体的に よりよい

テーマを絞って、目指す姿を焦点化・具体化することで、研究で明らかにすべきことが考えやすくなり、実践後には、因果関係も明確にしやすくなります。

〈参考文献〉 野田敏孝『初めての教育論文—現場教師が研究論文を書くための65のポイント』 北大路書房 2005